



国際会長ニュース

命の川を信じよう

第8号 2021年2月



国際会長 ジェイコブ・クリステンセン

このニュースは、1年を通して、毎月の寄稿記事や最新状況の報告によって、YMI 会員の皆さまに情報をお伝えするためのものです。このニュースをお受け取りになった際には、できるだけ多くの会員の皆さまに転送いただければ幸いです。メンバーは、何も受け取らないよりも、重複して2部を受け取る方が良いでしょう。

会員の皆さまへ

国際会長ニュース 2月号へようこそ。本号では、今月の2つの重点分野である「ユース海外短期交流プログラム(STEP)」と「タイム・オブ・ファスト(TOF)」に加え、恒例の恒例の「IHQからのニュース」と「良い話を伝えよう」を掲載しています。

最初に、私に大きな刺激を与えてくれたラッセ・ベアグステットの話をしたいと思います。ラッセと私は、1981年にオスシマランズ・ワイズメンズクラブを立ち上げたグループに所属して

いました。クラブの発足時、私たちふたりは、チャーター会長になることが検討されていましたが、コインを投じて決めることにした結果、ライズが勝ったのです。クラブは、彼のリーダーシップの下で繁栄し、現在



では40周年を迎えています。会員たちは、長年にわたって、他の人を助けるための仲間意識と良い活動を大切に、特に地元のボーイスカウトや国内外の人道プロジェクトを支援してきました。毎年、クラブは、約100,000デンマーククローネ(16,300米ドル)を配っています。このお金は、毎年の新聞くじの発行、果物や野菜(特にイチゴやネギ)の栽培・収穫・販売、クリスマスの植物販売、市場での支援活動などから調達されています。

1998年に家族と私がリンケビングに引っ越し、リンケビング・ワイズメンズクラブに入会したため、オスシマランズクラブを退会しましたが、以来、ラッセとは、常に連絡を取り合っています。

彼は、1991年にデンマーク区理事に就任し、1991年から2001年まで、リーダートレーニングの役割を担いました。彼は、両方の役割において非常に優れていたことが証明されました。その後、より大きな仕事として、2007/08年の国際会長に選出されました。



Lasse at his installation as IP - 2007

【2007年 国際会長就任式】

これをきっかけに、私も彼の進んだ道を追いかけるようになりました。

ラッセは、しばらく前から体調を崩して、ワイズの活動に参加することができていません。クラブは、アストルプ教会で彼の功績を称えて礼拝を行いました。私も、彼がワイズメンズクラブ国際協会に与えた長い間の貴重な奉仕に敬意を表明することができました。私は、また、彼に国際会長賞を授与することができましたが、この賞の盾には、次のような言葉が刻まれています。



「ワイズメンズクラブ国際協会は、彼の、私たちの運動における卓越したリーダーシップと人類への奉仕を深く評価しています。」

ラッセは、この集まりには参加できませんでしたが、コロナ禍による制限がなくなったら、彼が住んでいる老人ホームを訪問して、賞を手渡すつもりです。



Jacob Christensen

ジェイコブ・クリステンセン
2020-21 国際会長

IHQ ニュース 2021 年 2 月

年末の休暇を終えて、2021 年 1 月 4 日には通常の業務に戻り、国際本部の機能が再開されています。ジュネーブが新型コロナウイルスのホットスポットであることに変わりはないため、可能な限り在宅勤務を採用すべきであることを規定した州および連邦政府の規制に従って、現地スタッフは、ほとんど自宅での勤務を続けています。パンデミックの問題にもかかわらず、私たちは、皆、安全に過ごしています。私たちは、良い精神で新年を迎え、2021 年がより良いものになることを願っています。

現在も続いている新型コロナウイルスによる渡航制限のため、ワイズメンズクラブ国際協会は、2021 年 2 月に開催される予定だった、実際に集まって行う国際議会の年次会議と次期理事サミットを中止せざるを得ませんでした。

2 月は、タイム・オブ・ファスト(TOF)プログラムの強調月間です。TOF プログラムの資金集めは、私たちのクラブとパートナー組織である YMCA の非常に価値のある重要なプロジェクトを成功させるために不可欠なものです。新しい国際統一プロジェクト(UGP)である - Heal the World(世界を癒そう)の導入により、皆さまの TOF への支援はさらに重要になっています。TOF のプロモーションのための新しいビデオを公開しました。[ここ](#)をクリックしてご覧ください。

1 月 7 日に国際事業主任の年次会議が開催され、すべての国際事業主任が報告書と行動計画を発表しました。

標準的および必須のクラブ物品のための新しいカタログが作成されました。部/区/地域の皆さまは、「[特別カタログとオンラインフォーム](#)」をご利用の上、ご注文ください。

1 月 16 日、特別な Zoom ミーティングにて、2020-22 年度国際ユース代表(IYR)のドワイト・トムリンソンが国際会長の司式によって就任いたしました。ドワイトの新しい役割での活躍を祈ります。

100 周年記念祝賀チームは、活発に活動していて、クラブレベルでの 100 周年記念のための 100 のアイデアを提案しています。パンフレットを見るには[ここ](#)をクリックしてください。

100 周年記念奉仕プロジェクトの資金を調達するために、2,500 米ドルの寄付に対して、100 人の個人またはグループに終身名誉会員の称号を授与することが決定されました。右の[チラシ](#)をご覧ください、詳しくは、[ここ](#)をご参照ください。

LEGACY **FUTURE** **Y'S MEN INTERNATIONAL**

In 2022, Y's Men will reach 100 years of service. As part of the centennial observance, we plan to establish **100 HONORARY MEMBERSHIPS** to recognize our members, supporters, and others who have made a significant contribution to the organization. We are seeking **\$2,500** to establish this fund.

1922
2022

100 CENTENARY PROJECT FUND

For implementing Centennial Service Projects worldwide. We will honor the Paul William Alexander Founder legacy initiative.

100 CENTENARY PROJECT FUND

To an Honorary Member of Y's Men International.

HOW TO DONATE

NAME: _____
ADDRESS: _____
CITY: _____
PHONE: _____
EMAIL: _____

I am an Honorary Member of Y's Men International.

CENTENNIAL OBJECTIVES

- to recognize our members and supporters who have made a significant contribution to the organization
- to establish the fund to support the implementation of Centennial Service Projects worldwide
- to honor the Paul William Alexander Founder legacy initiative
- to increase the visibility of the fund
- to increase the fund's contribution to the fund in 2022

YOUR DONATION

- to establish the fund
- to support the implementation of Centennial Service Projects worldwide
- to honor the Paul William Alexander Founder legacy initiative
- to increase the visibility of the fund
- to increase the fund's contribution to the fund in 2022

次期国際会長(2021-2022)と次期国際議員の年次選挙がオンラインで行われ、1 月 29 日に投票が終了しました。結果は、まもなく発表されます。

2021 年 1 月 3 日にインドのファリダバードで、地元の会員と他国からの会員で構成されるグローバルクラブとして新しいクラブが設立されたことは、心強いことです。他の区や地域のクラブが、私たちの運動を拡大する可能性を求めていただくことに期待します。

アジア太平洋地域では 1 月 16-17 日に Zoom での次期理事研修が行われ、インド地域では 1 月 30-31 日に対面での会議として次期理事、次期部長研修を行う予定です。私達は前進しています!

どうぞ安全と健康にお気をつけください。

国際書記長 ジョース・ヴァルギース



「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」



STEP - 2 月強調月間テーマ

これは、青少年のための交流プログラムで、他国や国内の他区のワイズの家族と 3~11 週間一緒に過ごすものです。



この素晴らしいプログラムは、ワイズメン、ワイズメネットの 18~25 歳の子供や孫および YMCA ユースの国際交流をアレンジします。また、別の場所で自分の国について学ぶこともできます(国内での交流に参加の場合)。このプログラムは、学生だけでなく、ホストファミリーやコミュニティーそして私たちの運動全体にも利益をもたらします。なぜなら、これは、ワイズメンと YMCA の究極の目的である国際的な仲間意識を達成することを助けるからです。若者たちにこの機会を提供することによって、将来の世代がワイズダムに関わり、ワイズに興味を持つことを確実にすることができます。

STEP は、休暇ではありませんが、応募者は、勉学の妨げにならないように、プログラムに参加するために休暇中の期間を選択することができます。期間が短いので、学生と同じ言語でコミュニケーションをとることができればベストですが、それは、必ずしも可能とは限りません。ホストファミリーは、愛情に満ちた家庭環境を提供し、クラブの仲間と一緒に、参加者に、その国のワイズダムや文化を学ぶ機会をできるだけ多く与えることができます。

STEP の申請や手続きに費用は、かかりません。ただし、往復の航空券代やお小遣いは、申請者(親などの支援を得て)の負担となります。区は、区内でも STEP 交流を行うことが奨励されていて、これは、費用が安く済みます。国際的な経験と成長のための素晴らしい機会であることを学生に知ってもらうために、クラブがこのプログラムを宣伝することが重要です。学生は、異なる文化、習慣、言語を体験し、兄弟愛と国際間の平和的な結びつきの喜びを実感し、世界的なワイズダムの活動を学び、自信と責任感、成熟度を高め、ホストクラブと地域社会に国際的な雰囲気をもたらすことができます。

詳細は、[こちら](#)をご覧ください。

リタ・ヘティアラチチ
元地域会長、STEP 国際事業主任

TOF - 2 月強調月間テーマ

1970 年 12 月 13 日、第 1 回「断食の日」が開催されました。3,974 米ドルの寄付金が集まり、難民プログラムのために世界 YMCA 同盟に寄付されました。TOF は 1972 年に導入されて以来、YMI の主要なプログラムとして発展してきました。



このプログラムのコンセプトは、ワイズメンズクラブ国際協会の会員が少なくとも 1 食分の食事を抜き、その食事代を基金に寄付するというものです。TOF は、ワイズメンズクラブ国際協会と YMCA のために資金を配分し、継続して、必要とされる方々に支援を提供しています。TOF の取り組みは、地元と国際の両方に影響を与えます。そのプロジェクトは、国連の「持続可能な開発目標」(SDGs)のうち少なくとも 1 つに沿ったものでなければなりません。

私が 2010 年に BF 代表としてラテンアメリカとブラジ



ルを訪問した際には、ペルー、ボリビア、チリ、サンパウロで TOF の資金援助を受けて建設された施設を訪問しました。

YMCA の諸センターでは、スラム街の貧しい家庭の子供たちに会いました。彼らは、スポーツ、芸術、工芸など様々な分野で技術を身につけ、才能を伸ばすことができました。

2013 年には、ヤロスラヴリに高齢者のためのセンターを建設する TOF プロジェクトが承認され、私は、ワイズメンズクラブ国際協会とヤロスラヴリ YMCA の共同プロジェクトである「Dacha」の建設を監督しました。今、こ



のセンターは、より良い設備が必要で、昨年ヤロスラヴリ YMCA は、ノルウェーのトンスベルグ・ワイズメンズクラブと共同で新しい TOF プロジェクトを申請し、承認されました。1 月 22-24 日に「Dacha」で開催されるロシア区の年央会議に参加して、このセンターがどのように使われているかを見るのを楽しみにしています。

TOF プログラムは、50 年前から続いています。ワイズメンズクラブ国際協会は、TOF の重要なプロジェクトに年間 130,000~200,000 米ドル支援しています。TOF プロジェクトの申請は、毎年 3 月まで受け付けています。2 月は、TOF 月間で、食事を抜いて、困窮している人々を支援します。

詳しくは、[こちら](#)のビデオをご覧ください。

オルガ・ボズチコバ TOF 国際事業主任

シャーロットタウン・ワイズメンズクラブの年次フードドライブ

1986 年秋、カナダのシャーロットタウン・ワイズメンズクラブは、地元のフードバンクを支援するために、生鮮食品以外の食料品の収集を行うことを決定しました。「A

Drive For Food」という言葉が生まれました。目標は、10 月下旬から 11 月上旬の月曜日の夕方 6 時から 9 時までの間に、約 10,000 世帯から食料を集めることでした。

この最初のイベントのために多くの計画が立てられ、フードバンクだけでなく、当クラブと YMCA にとっても大成功を収めました。325 人のボランティアの方々と一緒に、親切な市民の方々から 4 トンの食料を集めました。このプロジェクトは、大成功であり、最終日の夜の興奮は、比類ないものでした。このプロジェクトは、1 回限りのはずでしたが、必要性が高まり続け、昨年 10 月には第 35 回目の年次フードドライブとなりました。昨年は、500 人以上のボランティアが奉仕しましたが、新型コロナウイルスによって、フードドライブをどのように実施するかという問題が当クラブとアップ

パールロード・ホスピタリティ (URHM) 当局に生じました。一軒一軒訪問することができないため、ドライブスルー方式を採用することになりました。URHM のイベントコーディネーターでもあるビル・アーウィン、クラブのフードドライブコーディネーターとして活動を続けました。地元の新聞で宣伝することができ、15 の集積場所で 40 パレットを集めることを目標にしました。合計 35 パレットが集まり、52,500 ポンド (23,800kg) の非生鮮食料品が集まりました。前年は、戸別訪問で 41 パレットを集めました。別の方法で行った今回の成果には非常に満足しています。また、4,300 カナダドル (3,360 米ドル) の寄付がありましたが、これは前年よりも増加しました。

フードドライブを運営してきた 35 年間で、私たちは推定 5,400,000 カナダドル (4,220,000 米ドル) の価値の品物を集めてきました。私たちは、すでに来年のイベントを計画しています。この時点では、伝統的なドア to ドアの方法に戻ることができるかどうか、または、ドライブスルーでの実施を繰り返すかどうかはわかりませんが...

ビル・アーウィン
シャーロットタウン・ワイズメンズクラブ
(プリンスエドワード島、カナダ)

Tell a good story.



TOF-持続可能な旅

2014 年 10 月、YMCA コソボは、アルネ・ニールセンの主導で、コソボに初のチャリティーショップをオープンするための資金援助を TOF プログラムに申請しました。さらに、デンマークのハーデルネ・ワイズメンズクラブから 5 トンの衣類をいただき、ジャコーヴァ市にこのショップをオープンするための支援を受けました。ハーデルネクラブは毎年、衣類、寝具、おもちゃなどの支援を続けており、彼らの支援は、毎年私たちの街の恵まれない家庭の何百人もの人々にサービスを提供するための新しい旅の基礎となっています。ジャコーヴァ市の店は、初年度から自立し、雇用の創出や若者のボランティア活動の機会を提供できています。ショップで得られた収入で、私たちの組織は、毎年クリスマスに貧困家庭に食料品や衣類を送ることが可能になりました。

2019 年には、ハーデルネ・ワイズメンズクラブとコソボのジャコーヴァ・ワイズメンズクラブの支援を受けて、別の都市プリシュティナに 2 店舗目をオープンするために、



TOF 基金に申請を行いました。この店では、プラスチックの使用量を減らすために、プラスチック袋の代わりに紙袋を使う文化を始めました。その後、新型コロナウイルスが世界的に大流行したため、私たちは、団結し、2 号店をオンラインに移行し、スタジオ、配送システム、オンラインウェブサイトを構築しました。私たちは、幸運にも全員を雇用し続けることができ、また、ロックダウンや制限の中で運営のための解決策を見つけることができました。私たちは、このプロジェクトの数年という短い期間で、多くのことを学びました。若い組織として、敏速であること、持続可能な成長と運営について考えることの重要性は、大切な学びです。TOF の取り組みに寄付をしてくださるワイズメンズクラブ国際協会会員、友人の皆さまには、大変感謝しています。私たちスタッフと YMCA は、ワイズメンの支援に感謝していると感じています。

2021 年には、パンデミックで大きな打撃を受けた若者たちのために、より多くの店舗をオープンし、より多くの雇用を創出する予定です。

私たちの事業は、親愛なる友人であるワイズメンの皆さんのかけがえのないサポートがなければ実現できませんでした。

エリナ・アルラティ、コソボ
チャリティー・ショップ・マネージャー